

原鉄道模型博物館について

当博物館は、世界的に著名な鉄道模型製作者・収集家である原信太郎が製作・所蔵した世界一ともいわれる膨大な鉄道模型と、鉄道関係コレクションを、一般に公開するものです。

信太郎の鉄道模型の特長の一つ目は、蒸気機関車から電気機関車へと

鉄道が著しい発展を遂げた時代の日本・ヨーロッパ・アメリカを中心とした世界中の鉄道車両を再現したコレクションであることです。

横浜にいながら、世界の鉄道を楽しむことができます。

信太郎の鉄道模型の特長の二つ目は、本物の鉄道車両を忠実に再現していることです。

模型は架線から電気をとり、鉄のレールを鉄の車輪で走行します。

なかでもご注目いただきたいのはその"走行音"。レールのつなぎの音がゴトンゴトンと鳴り、本物と同じサウンドを聞くことができます。

ギア、板バネ、ペアリング、揺れ枕、ブレーキ…外からは見えませんが、本物の鉄道で使われている技術を搭載することにより実現した模型の走り。

当博物館では、一番ゲージ（縮尺約1/32）の鉄道模型が実際に走行する、

一般公開されている室内施設としては世界最大級のジオラマを用意しました。

信太郎は、鉄道と技術をこよなく愛し、鉄道の技術革新があると、

世界のどこへでも実際に見に行き、乗車し、当時珍しいカメラや16mmフィルムに収めています。

そのようにして収集された膨大な鉄道資料や旅行の資料、技術資料の数々の一部も当博物館でご紹介いたします。

それらの技術が実際の模型に搭載されていることにもまた驚かされることでしょう。

信太郎が収集した模型や資料の数々は、鉄道史のみならず現代産業史にとって貴重であるとともに、

鉄道という「その時代の先端技術」がもたらした、その時代の「旅の夢」「見知らぬ世界への憧れ」「新しい産業への夢」とも言えるものです。

皆様のご来館をお待ちしております。

●営業時間／10:00～17:00（最終入館16:30）※予告なく営業時間を変更する場合があります。

●休館日／毎週火曜日・水曜日（祝日の場合は翌営業日に振替）

●入館料／大人1,500円、中学・高校生1,000円、小人（4歳以上）750円（全て消費税込）

●入館方法／チケット販売サービス「イープラス」か、ファミリーマート店内のマルチコピー機より日時指定の入場券を購入してください。

●アクセス／横浜駅・新高島駅（みなとみらい線）が最寄駅になります。

横浜駅から階段・エスカレーターを利用される方



- 1 東口からエスカレーターを降りそぞう横浜店まで直進
- 2 そぞう前の広場を右に進み突き当たりの階段を上がる
- 3 横断歩道を渡り、直進横浜三井ビルディングの2階が原鉄道模型博物館です



- 1 横浜ボルタ（東口地下街）に降りる。エスカレーターの手前を右に曲がり、突当たりにあるエレベーターで地下2階に降りる（ルミネのエレベーターでも地下2階に降りることができる）
- 2 ボルタ（地下街）をスカイビルまで進む
- 3 スカイビル前を左折し、そぞうとマルイの間のエレベーターで地下1階に上がる。直進セブンイレブンを少し過ぎた右手にあるエレベーターで2階に上がる
- 4 そぞうを見て、直進すると「はまみらいウォーク」に出る
- 5 「はまみらいウォーク」を進み日産グローバル本社手前のエレベーターで「G階」に降りる
- 6 姫子川を右手に進んだ正面の横浜三井ビルディングの2階が原鉄道模型博物館です

新高島駅からエレベーターを利用される方



- 1 改札を出てすぐ2番出口を出てください
- 2 みなとみらい大通りの横断歩道を渡り日産グローバル本社側に進む
- 3 日産グローバル本社隣の横浜三井ビルディング2階が原鉄道模型博物館です

原鉄道模型博物館



世界最大級*のジオラマ「いちはんテツモパーク」

一番ゲージの蒸気・電気・トロリーの軌道が走る総延長450mの巨大なレイアウト。本物の街を本物の車両が走るようなリアルな情景をお楽しみください。

第一展示室「原模型の真髄」

原模型の中でも、代表作を展示。模型製作にまつわるエピソードや部品に至るまで詳細に解説しています。



或る列車



箱根登山鉄道



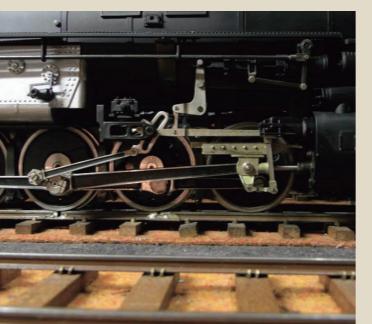
オリエント急行



原鉄道模型の秘密

●鉄の車輪と鉄のレール

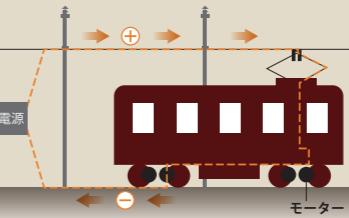
レールと車輪に鉄が使われているから本物に近い音が聞こえる！



●架線集電

架線から集電してレールに流す、本物志向の集電方式

電源から架線に供給された電気が、架線→パンタグラフ→モーター→車輪→レールに流れることで車両が動きます。



●惰力走行

本物の電車のような惰力走行を実現

原信太郎が11歳（1930年頃）から追求してきた鉄道模型による惰力走行。それは、モーターへの通電を切った後も、車輪がそのまま回り続ける方法を考えたことでした。長年かけて完成させた原模型の惰力走行は、ギア、電気回路、モーター、ボルト・ペアリングなどいくつもの条件によって実現されています。

●実物通りの台車の構造

台車構造の揺れ枕や軸箱も稼動で再現、急カーブもスムーズに通過
鉄道模型は、現実の鉄道にはありえない急カーブを走らせます。また原模型のように大型の模型は特に、カーブで車体が振られることにより、脱線のリスクも高まります。このため、カーブの衝撃を緩和する「揺れ枕」を台車に組み込み、カーブ走行時に車体が傾くように、軸箱も稼動するように設計しています。原模型の豪快な走りは、台車に採用しているこうした機構に支えられています。

*一般公開されている一番ゲージの室内ジオラマとして世界最大級。○記載されている内容は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。